



SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2018～2019年度 RI会長 バリー・ラシン
RIテーマ インスピレーションになろう

クラブテーマ「あるがままの30周年＜Let it Be 30year＞
思いを込めて！」

副会長 山田定男 幹事 岡 良森

第1389回例会 2018.11. 9(金)曇

司会:服部光弥君 指揮:藤川智徳君
ロータリーソング「我等の生業」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央町ビル2F
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ



例会場 呉竹

TEL.055-975-3210
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 石井司人君

今日の雨は、いろんな意味で良い雨と感じます。少し地面が乾いていましたので、特に我が農園の野菜にとっては、恵みの雨でして、又前日に来年に採れる豆類の豆蒔きをしていましたから、尚更良い雨でして、そして一雨ごとに冬に向かって行くことにですね、季節の変わり目ですから、お身体にはお互いに気を付けましょう。

さて本日のアンチエイジングの野菜は、アマブローとゆう野菜です、ビタミン類が豊富に含まれています。ぜひお召し上がり下さい。

出 | 席 | 報 | 告 |

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	20/33	60.61%	28/33	84.85%
今回	23/35	65.71%	会員総数	37名

欠席者

あなたが見えなくて残念でした。

石井(邦)君、大庭君、大村君、小林君、篠木君、杉山君、鈴木(真)君、土屋君、仲原君、中本君、中山君、山本君
(*出席免除会員の欠席者 片野君、兼子君)

入会おめでとう



鈴木俊也君

生年月日:昭和53年8月9日(40才)

職業分類:自動車販売

代表事業所:(株)ダイワオート

三島市南町269-2

役職 社長

おめでとう

会員誕生日 11月6日 田中錦城君
11月10日 岡 良森君
入会記念日 10月5日 鈴木政則君



幹事報告

幹事 岡 良森君

①今月のカンボジア訪問に向けて
中古ミシンはじめ先方からリクエストのあった日用品をすべて現地に送りました。また、タイ・スリウォンRCへの感謝状も準備しています。

②指名委員会の開催について
来週、指名委員会を開催します。出席義務者はよろしくお願いたします。

藤川智徳君

「人は得るもので生計を立て、与えるもので人生を築く」

イギリス元首相ウィンストン・チャーチルの言葉です。この言葉を聞いた時、なんだかロータリーっぽい感覚だなあと感じ、調べてみるとやはりそうです。彼もまたロータリアンでした。チャーチルのこの言葉に感動しているのも束の間、次の疑問がすぐに湧いてきました。得るもの・与えるものって、いったい何だろう。安直にお金だけとは言えないはず。その相手は誰なのか。解らず、またその目的や方法、そしてどこまでが適正であるかまでは決して教えてはくれません。得ること・与える事の重要性は、天秤に掛けるべきものでもないし、どちらもとても大切なことです。昔の自分だったら与えるという概念は毛頭無く、手持ちが減ることは失うこととまで思っていたでしょう。世の中、そんな人も多いかもしれません。とどのつまり、僕らの活動は、この得ること・与えることの活動でもあります。ロータリーとは、仲間と共にこの2つを学んでいく場なのかもしれません。

人は何かを得る時もまた与えられた時も「ありがとう」と感謝を表します。本日、僕がお話させていただいた内容は、いわゆる綺麗ごとです。綺麗ごとではあるのですが、僕が今、一番大切にしている感謝を知るための綺麗ごとの話です。またこれは、あくまで自分の見解です。数年前にネットで『ありがとう』の反対語は何?』というものが少し話題になりました。ロータリーの地区大会だったか、先輩の方が締めめの挨拶でも同じことを仰っておりました。皆さん、覚えていらっしゃいますか? その答えはズバリ『あたりまえ』ということになります。改めて紐解いてみると『有難う』は有ることが難しい。と書きます。普通では存在し難いこと・あり得ないほど特別なこと、つまり感謝することでもあります。一方、『あたりまえ』はむしろ普通のことにあること・当然であると解釈できます。ここで普段普通にありそうなことの例えを10個いいます。皆さんはくつ当てはまるでしょうか?

- ・毎日仕事があること
- ・毎月決まった日に給料や入金かきちんとあり、そして支払いができること
- ・朝起きて美味しい朝食が食卓に並ぶこと
- ・自分や家族・仲間がいつも健康でいて、そして側に居てくれること
- ・好き勝手なことが自由に言えること
- ・好きな本が読めて音楽が聴けること
- ・夜、安心して眠れること
- ・戦争がなく平和であること
- ・生きてること生命そのもの

以上、一見するとどれも普通にあることにも思えますが、実は何一つ当たり前存在し続けることはありません。日本では当然であっても国が違えば有り得ないってこともたくさんあります。タイの諺で『終わらないパーティーはない』というのがあります。どんなに楽しいことも普通にあることもすべていつかは終わりが来る。永遠はない。という意味です。だからこそ当たり前と思える事に僕は毎日頃から感謝すべきなのでしょう。

・無人島の話(画像)...

この絵は僕が宅建の資格を取る為、勉強した時の教科書の最初に載っていた挿絵です。おそらく法律関係の方も同様に習ったとは思いますが、約束事や法律とは2人以上が存在して初めて生まれるものだと思います。当然です。2人以上がいなければルールどころかマナーすら要らない。法律を学ぶ上での基本原則は人と人の民法からスタートするとの事でした。僕はこの絵を見たときに正直そんな法律事はさておき、まったく別の意味を感じていました。『無人島で一人ぼっちの何も無い状況って、これこそが本当の物事の原点・何も無い状況こそがむしろ「当たり前」だと思うべきなんじゃないか?』『あたりまえ』基準を一旦、0にしてみると本当に必要なものがまっさらとみえてくる。逆に何かをありきで考えてしまうから大切なことが覆ってしまうのではないのか。と貧しい環境で育ってきた自分だからこそ人一倍そう感じたのかもしれません。当たりの基準はどこに定めるかで感謝の度合いは変わってきます。すでに満たされている人と満たされていない人に同じものを渡したときに受け取り方も感じ方もきっと違うことでしょう。仮に無人島にいる一人ぼっちの自分と恵まれた今の状況の自分との差こそが感謝すべき度合いだと考えています。ですから今ある自分の状況を決して当たり前だと

は思わず、感謝を忘れておごりが出そうになる時には、僕はすぐに頭の中で自分を無人島への島流しの刑に処します。数年前に僕は一時、本業以外で、とある店を運営してある従業員が常連の大事なお客様に対して感謝を忘れ、ぞんざいに扱ったことがあり怒鳴り飛ばしたことがありました。『数あるお店の中でうちを選んで来てくれた大事なお客様にそんな対応でどうするんだ。店を開けたらいつでもお客様があたりまえに来てくれると思ったら大間違いだ。そんな当たり前なんかこの世の中にはないわ!』とその時、僕はかなり熱くなっていました。しかし、今思えば経営者の僕と従業員の彼とは立場が違うゆえに感謝の基準が違って当然です。経営者として自らが感謝を知り、それを従業員に伝えていくことは大きな仕事の1つかもしれません。ちなみに、『ありがとう』『感謝』とは正確に同じではないとのこと。『感謝』の中になぜ『謝る』の文字が入っているのでしょうか? 一説に『感謝』とは実は『ありがとう』『ごめんなさい』との2つの意味から構成されているとのこと。人は誰でも己の人生においては己が主人公になりますから、どうしても自分本位での生き方になり、人様に対して知らず知らずのうちに迷惑をかけるながら生きていく状況となります。日本では、親が子供に『人に迷惑をかけてはダメだよ!』とよく言いますがインドでは『お前も人に迷惑をかけて生きているのだから、人からの迷惑も許してあげなさい』と教えるそうです。礼節を重んじること・寛容を育てること、それぞれではありますが、何れにせよ『ありがとう』『ごめんなさい』をきちんと認識でき、しっかりと伝えることが重要とのこと。従いまして、『ありがとう』だけで『感謝』の中の半分しか到達してないとも言えるでしょう。『感謝』とは、結局、人は生かされていると言うことを知ることなんだと僕は思います。と、ここまで『感謝』を語る上でよくある話でございます。

僕が本当にお話したかったのは実はここからです。今まで『感謝』についてはよく考えていたのですが、その反対の『あたりまえ』というものについては深く考えたことがなく、先ほど述べたことに若干の誤りがあったのです。ここから『あたりまえ』の話を書きます。ある朝、いつも通り会社に出勤する車の中で今日やることを頭に思い浮かべている時でした。

- ・今日はこれとこれと色々やらなければいけないな。
- ・あの現場の工期はいつまでだな。間に合わせなければ。
- ・今月の支払いはいくらだったかな。確認しなくちゃ。
- ・そうだ今日、例会だった。早く行って準備しなくちゃ。

まあそんな感じで色々考えているとふと、あれ? 本来、当たり前と呼べるものなんて一つもないと思っていただけ、当たりのことって結構あるじゃん。今、自分が感じた感覚って何だろうとしばらく考え整理してみると解ったのです。そうです。僕にとっての『当たり前』とは、自分自身が責任を以て『やらなければならぬ事』自分自身に課する義務のようなものだったのです。今まではずっと、そこらじゅうにある『あたりまえ』と自分の『あたりまえ』を混同して一つという言葉だけで片付けていたのです。『あたりまえ』というものが、もし大きく分けて2つあるとしたら、1つは、一般的な誰が考えてもそうであるべきだと思ふ当然の『あたりまえ』もう一つは自分自身に向けた『あたりまえ』それは、もはや当然ではなく必然たるもの。今この時、自分のやるべきことが理解できて、その必然のマス目をきちんとできているか。だと思いました。また『あたりまえ』というものの非常に巨的な点は社会的地位が高まれば高まるほど『あたりまえにやらなければならぬ』ことをきちんとできているかを常に世間様から問われるようになるということです。頼まれごとが試されごとになっている事だって少なくありません。『あたりまえ』の概念は人それぞれ違っていて、自分の『あたりまえ』を他人に押し付けることは出来ません。人には人の事情もあります。他人の『当たり前』についてどう言う前に、まず自分の『あたりまえ』についてはどうなのか、胸に手を当てて、目を閉じ心穏やかに考えてみるのも良いかもしれません。『ありがとう』ってすごくいい言葉だけにその反対語の『あたりまえ』って勝手な思い込みだけで悪い言葉、おこがましい感覚だと思っただけで自分自身に当てはめた場合の『あたりまえ』をきちんとやりきることは実は『感謝』と同じ位、すごく大事なことで気づくようになりました。

次はこの二つの言葉の関係性についてです。『ありがとう』『あたりまえ』は反対語と言っていましたが今ではそれさえも少し違う気がします。周知のようにコインには表と裏が必ず存在し光には影、生と死、オセロの白と黒、ボケとツツコミ、権利と義務。『ありがとう』『あたりまえ』は反対ではなく言わば表裏

一体の関係ではないだろうか？切っても切れない関係。一見相反する二つのものが大もとでは一つ。反対語の意味と表裏一体の意味とは似て非なるものです。また、『ありがとう』の反対は『あたりまえ』ではなく『どういたしまして』という方もいます。『ありがとう』と感謝されたら『どういたしまして、当たり前のことでしたから』と続きます。相対的な関係の『ありがとう』と『あたりまえ』の頭2つをとって『ありあた』の法則と勝手に名付けます。この『ありあた』の法則によれば物事の大半はこれに合致します。人間関係はもちろん、仕事におけるそのすべて、お金と価値とのやり取りなどこの『ありあた』の法則の一例をあげます。ロータリー例会開始1時間以上前には宇都宮さんが一番乗りで、自分が行くころには必ずそこいてくれます。僕がいつも早いんですね。』という彼女は『まあ、仕事だからね』と言います。そうです。彼女自身は当たり前自分の仕事をこなしているのでしょう。彼女にとっては当たり前であっても、これを僕らが当たり前だと思ふことは違うのです。また、彼女自身も感謝されることをさほど望んでいないでしょう。でも僕らの立場から見たときいつ来ても宇都宮さんがいてくれる安心感と安定感に僕は感謝いたします。お金を払えば誰でもこなせる仕事とも違います。しかも何十年の間、あたりまえにいてくれる宇都宮さんが将来、事務局を離れていなくなった時に僕はきっと彼女の偉大さを痛感することでしょう。また、夫婦間でもそうです。俺が働いて金を持ってきてやっているんだ。だから感謝するのがあたりまえだろ。とか、わたしが家の事や子供の面倒をみているんだからお金を持ってくるのは当然でしょ。と自分の立場だけで相手に対し恩着せがましく言ってしまうけません。(たとえ事実がそうだったとしてもです。)増してや、飯が不味いとか、逆に稼ぎが少ないだの言った日には大変ことです。人は視点や距離が近ければお互い存在や状況の方が、より『当たり前』に感じるとの事です。身近な存在ほど感覚がマヒしてしまい、居て当然、やってくれるのが当然だと。因みに人が悲しくなる現象とは、その人の『あたりまえ』が崩壊した時に感じるそうです。居て当然の親がなくなり、居て当然の家族を失い、居るはずの友人や仲間、恋人。仕事で言えば頼りにしている従業員がなくなることも。気づいた時には裸の王様になっている危険性は誰もが持っています。先に述べた普段普通にありそうなこと10項目もその内1つでも失ったら、とても悲しくなります。

『感謝』の気持ちを忘れず自分の『あたりまえ』をきちんとやりきることは簡単なようで実はとても難しい事です。なぜなら人は過度なストレス社会に身を置き、忙し過ぎると心をなくし、深酒によって我を忘れ、孤独を恐れるがあまり人間関係が振り回されて、また、とことんお金の強いところがあるからです。度が過ぎるプライドや握った権力・欲望・誘惑などによって正常な判断を狂わし何が『ありがとう』『あたりまえ』だか訳が分からなくなると、しまいには、それすら感じなくなる場合だってあるかもしれません。また、もっと酷いのは自分が『感謝』すべきことを『あたりまえ』だと勘違いして、自分自身が『あたりまえ』にやらなければならぬことなのに逆に他人に『感謝』を求めたりすることは非常に残念なことです。『感謝』されたいがために自分の『あたりまえ』を全うするのでなく生きていくために必要だから自分の『あたりまえ』を全うした時に、たまたま世間様のお役に立ってとなって結果的に感謝される、といったところでしょうか。なんだか、この世の中は『ありがとう』『あたりまえ』とのしくみでできているという気がしてまいりました。世の中の争いごと・もめ事の大半は元を辿ればこの『ありがとう』『あたりまえ』の取り違いや欠乏によって生まれるのかもしれませんが。今では誰もが知る『付度』という言葉。他人の気持ちを推し量ること儒学者・孟子に語源を成したそうですが、実はこの『付度』、本来は単独ではないとの一説もあります。立場の観点から目下の者が目上の者に対し『付度』する。では目上の者から目下の者にするものは何か。それは『側隠の情』『側隠の心』だそうです。『側隠』とは思いやりとか同情すること、守ってあげる精神、性善説で言うところの仁につながる言葉。『付度』『側隠』も相手のことを、おもひよがるという点では共通していますが立場の違いで反対の位置関係にあります。そして『付度』『側隠の心』はセットで扱うそうです。付度されることばかりを求め、側隠の情が欠けているために世の中おかしくなっているという見方もあります。ちなみにこの『側隠の心』は犬にも存在します。犬は自分の子供はもちろんのこと、犬と人間の赤ん坊を一緒に育てた場合、赤ん坊に危害が加わりそうになると犬は我が身を顧みず必死で赤ん坊を守ろうとします。

私たち経営者は従業員の生活や時間・半生までも担う責任の中でどう考えていべきでしょうか？僕は自分に問いかけます。

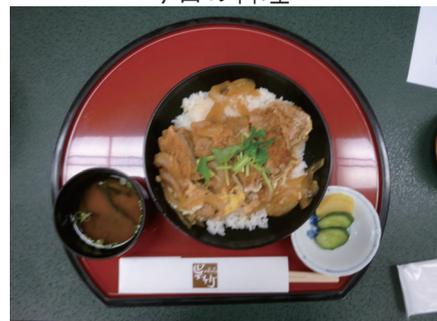
- ロータリー4つのテストは実践できているだろうか？
- 従業員や若い人たちに命令や批判ばかりで、感謝し、労をねぎらっているだろうか？
- 本来の目的を見失ったり、大事なことを忘れていないだろうか？
- 慣れた仕事にあぐらをかいていないだろうか？
- 物事の順番を間違えていないだろうか？
- その行動は適正をなしているだろうか？

僕自身、頭の中では解っているけれども実際は行動できていない事もたくさんあります。一人は強し一人では何もできないってことをいつも教えられます。もし一人でも出来ることあるとしたら、きっとそれは単に自分のやるべきことをしっかりやることだけ、なのかもしれません。小学生の頃にはすでに習った『ありがとう』『あたりまえ』そして『ごめんなさい』。一つ一つの単語だけなら誰もが知っています。しかし、本当の意味や関係性を考え、理解し行動していく事は容易なことではありません。また、わかっていても表現することの難しさもあります。心の中だけで『感謝』していても、相手には、なかなか伝わらないし、また言葉足らずや逆に過剰な表現になりすぎても、いかなるものでしょうか。今では文章や手紙・ラブレターまでもパソコンやメールで打つ時代となり直筆で書くことは激減しました。常識や道徳観は置き去りにされてしまつて、スマホやゲームばかりが蔓延し、子供たちは外で遊ぶことも知りません。自分の親なのに老後の面倒を満足にみられない虚しさ。有り余る情報の中で、もはや真実が見えなくなっているという現実。こんな世の中で僕たちは大切な人に対し、心からの『感謝』をどう伝えていけるのでしょうか。便利すぎるが故に、それによって生まれる問題点やその代償はこれからはきっと増えていくことでしょう。のべつ幕なしに御託を並べてまいりましたが、所詮すべては綺麗ごとです。しかし、僕は思います。ロータリーの活動とは『価値のある綺麗ごと』が、どこまで実現できるかの挑戦だと。

以上、綺麗ごとでした。



今日の料理



案をたたき台として修正、変更案を作成する。……合同委員会・小委員会
会員全員協力のもと進める。

会場確定を早急に決定する。……プラザのみかプラザ+ワンか……実行副委員長

この10年間の成果を披露する……せせらぎ三島の伝統を守り『青少年育成事業』に通じた事業を披露する

タイ自転車……学校に通えない子供たちに自転車を送った。

3年後の自分への手紙……小学生に自分の将来を考えて貰う機会を作った。

東北震災……大槌町の全滅した全小学校に図書を送り続けた。

披露

1. 10年間の各事業のパネル展・ビデオ……歴代の委員長に協力依頼(写真展場所未定)

2. お礼状披露(3年目手紙は子供たち返送から抜粋)……スリオンRC・大槌教育委員会、復興副大臣からのお礼のビデオ、手紙、もしくは手紙。……歴代委員長に協力依頼

3. 田植え事業……田植えから稲刈り成果品寄贈までDVD作成……現会長、幹事に依頼

4. 中学生または小学生に弁論をして貰う(テーマは『青少年』間に合わない場合はフリー)……今年度の弁論大会出場者を中心に議題、人数、範囲検討……実行副委員長

5. カンボジアへの挑戦・カンボジアアンコールRCとの連携……ミシン寄贈式に始まってアンコールRCとタイアップ……30周年事業か?……現会長、幹事、関係者に依頼

式典内容……20周年式典を継承……経験者に協力要請……人員配置……小委員会招集・合同委員会

オープニング……太鼓のように派手にか(30周年の太鼓)
感動的にナレーション(朗読)にするか

……小委員会

アトラクション・青少年を巻き込むものか(子供チアダンス?)

楽しめるものにするか検討……小委員会

記念誌……20年から30年をまとめる。

功労者……チャーター年度から30年間活躍の4名表彰

記念誌に1頁使う、会員からの一言掲載

10年間の会長経験者……思い出、謝辞を掲載

……小委員会

合同委員会委員会を複数回に開催し骨子固める……配置責任決定……11月末まで

小委員会で骨子を検討し具体化する……12月中旬まで全てを決定……1月末まで……依頼・発注

最終確認変更……2月末……確認作業

……準備委員会

予行練習……3月末……当日仮定、設定で予行練習……実行委員会

次週11月16日合同委員会予定(詳細は準備委員長から)

中村実行委員長・岡実行副委員長・服部実行副委員長
山口準備委員長・小林準備副委員長・顧問団



スマイルボックス

澤田 稔君:30周年記念式典中村実行委員長、石井会長、岡幹事、御尽力有難うございます。先般委員会で老人クラブがせせらぎと女性も愛して、しかも応援の為に発言をさせていただきました。申し訳ありません。

大房正治君:本日入会になります鈴木俊也君をよろしく願います。

石井司人君:無事田んぼアートが終わったと思いましたが、黒米も完全に刈り取ったと思いましたが、ところが脱穀しましたら全体のうるち米に黒米が混入して完全に取り除いたつもりが残念でした。難しいな～。

田中錦城君:先週までインドネシアのジョグジャカルタに行きました。さっそく風邪ひきました!

藤川智徳君:本日、大庭さんと交代しての卓話となります。宜しくお願い致します!

カンボジア事業打ち合せ報告

仲原さんがカンボジアに行ってきた、報告書を作成して頂きました、残念ながら仕事のため報告が出来ませんが代わりに報告します。

今回の視察、調査の目的であるアンコールRCの存在をカンボジア日本人会もNGO内田さんも知らなかったが、田井領事、日本人学校鬼校長のおかげでアンコールRCアンナ会長と会うことが出来ました。私の今回の趣旨である『カンボジアでの奉仕窓口、タイアップクラブとなる』を説明したところアンコールRCに快く引受けて頂く事が出来ました。

これから先進める場合は内田さんを介して進めていくことになります。また内田さんを田井領事に紹介しました。内田さんからリエンポン村とNGO活動の現状説明をし、せせらぎ三島RCからミシン寄贈の(11月末贈呈式予定)喜びの話などしました。田井領事からはシムリアップ調査費用申請してみようかとの提案がありました。日本人会でも色々な問題があるが、田井領事が色々相談のっていただけるようになります。

今回の訪問での打ち合わせメンバー。

在仙台カンボジア王国名誉領事 田井 進氏。

NGO Share.the.Wind内田 隆太氏。

NPO法人アンコールワット日本文化交流会理事長
兼日本人学校校長 鬼一二三。

アンコール日本人会会長 中尾 Kennta氏。

RC・ANGKOR District3350 Anna Hsieh会長。
30年11月9日仲原(代理米山)